



2020年4月入職

さとうしおん
佐藤 汐音

メンタルの安定が、患者さまの安心につながる

突発的なできごとにも、落ち着いて対応できるように

臨床工学技士は技術や知識が求められる仕事ですが、それと同時に、患者さまに対する精神的なサポートも欠かせない職種だと感じています。以前、血圧が下がりやすい患者さまが、透析中にプレショックを起こされたことがありました。もちろん想定はしていましたが、目の前で意識をなくされると、どうしても動揺してしまいます。自分の心をなんとか落ち着け、患者さまの背中をさすりながら「大丈夫ですよ」とこまめに声をかけました。無事にご帰宅されるときに、患者さまから「ずっとそばについてくれて、とても安心できた」とおっしゃっていただけたことは今でもよく覚えています。この経験を通して、機械の操作だけでなく、患者さまと真っ直ぐに向き合うことの大切さを学びました。

患者さまへの精神的なサポートを行うためには、まず自分自身のメンタルを安定させる必要があります。思いやりエキスパートの先輩方を見ていて思うのが、それぞれの個性を發揮しつつも、何事においても落ち着いて対処ができるということです。すべての患者さまに堂々とした態度で接していて、思いやりエキスパートの実力を間近で感じていました。

研修を通して、思考が変わった



思いやりエキスパートには1年前にも推薦していただいたのですが、先輩たちの姿を見て自分にはまだ早いと感じていたため、そのときはお断りしました。今回研修を受けることに決めたのは、自分の殻を破りたかったからです。私はもともと人見知りで、はじめて接する患者さまに対して気持ちをうまく伝えられないことがありました。

思いやりエキスパートの研修で学んだアサーティブ・コミュニケーションは、そんな私の思考を大きく変えてくれるものでした。内容を端的にいうと、お互いを尊重しながら意見を交わすコミュニケーションのことで、「何事も肯定的に捉える」と私は解釈しています。それまでは、相手の気に障ったらどうしよう、嫌われたらどうしようというように、ネガティブなところから思考がスタートしていたのですが、もっとフラットに人と接していいという気付きを得ることができました。今後は学んだことを実践で活かしながら、患者さまの満足度をより高めていける存在になりたいと思っています。



施設を明るく活気づけ
思いやり行動が
溢れるようにする
佐藤 汐音